

地区大会報告：

山崎 勲会員

第一日目の地区大会に皆と別行動で自分の車で参加いたしましたので、おいしい昼食を食べ損なっていました。

地区大会はプログラム通り順調に進みシンポジウム、教育、・家庭ですべきこと・学校ですべきこと・地域社会がすべきことで、コーディネーター藤川享胤、パネリスト井上恵、市嶋昌子、小田信雄、笹川秀則さんでパネルディスカッションが行われ、教育の問題で熱心なお話を聞くことができました。特にコーディネーターの藤川さんは駒沢大学仏教学部卒、職歴は米国サンフランシスコ桑港寺主任開発教師、宗教法人般若寺代表役員、経歴は・山形県PTA連合会副会長・調停委員、保護司を歴任・現在鶴岡ユネスコ協会会長・曹洞宗インターナショナル会長・日本パートナーシップ協会理事長などこなしておられ、ロータリー歴も24年と長く教育の問題でも、宗教の心も取り入れられ、コーディネーターを努められておりました。パネリストはコーディネーターに圧倒されてしまい、平凡な話で終わりましたが、それぞれ勉強されて来ており、内容も勉強になる部分も多かったです。パネリストのつながりを話を交えながらパネリストがうまくつないでくれて、退屈しない時間を過ごさせていただきました。北ロータリークラブでコーディネーターの藤川さんからおいでいただいて、1時間半位の講演を聞いて見たら教育の問題に皆が深い関心を持つようになるのではないのでしょうか。急がなくても実現してもらいたいものです。

石川友意会員

私は地区大会第2日目に出席させていただきました。地区大会出席は10年程前の本庄市で開催された時以来2度目でございます。

その時と今回とはやはりいい悪いは別としましても、規模の違いをはっきりと感じました。

アトラクションの中の白根の風揚げは風が無くて上がらなかったのが残念でした。それからもう一つ残念だったのはクラブ表彰で大野前社会奉仕委員長が壇上で表彰されなかったことです。時間的には充分余裕があったはずだったのですが……。又、表彰の中で1年間100%出席のクラブがあることに驚かされました。

記念講演では「蔵」の作家でおなじみの宮尾登美子さんの講演でした。作家生活30年ということですがその間に19冊の小説を書かれたそうで、その枚数はその数は作家としては少ない方だと言っておられました。中には17年間かけて何度も書き直して、ねりにねって書き上げた小説もあるということや又文章は何度も何度も見直し書き直すことによって、いい文章になることなど作家としてのプロ意識というものを感じさせて頂きました。そして今まで書いてきた小説は、全て女性の一生、女性の生き方を一貫したテーマで書いてきて、書いた小説は全て手塩に掛けて書き上げた1冊1冊であると言っておられました。あまり本を読まない、教養のない私ですがこの講演を機会に先生のせめて1冊でも読んでみたいと思っております。

私の仕事柄2Fのアリーナ席で懇親会場をつくる場所を見学させていただきました。設営していた所が私の知り合いでしたのでその手順に興味がありました。550人の料理、ドリンクの準備だったようです。立食でスタートした懇親会でしたが、いつのまにかイスが出てきて一般宴会になった訳ですが、やはりロータリーでは立食パーティーは無理なのかとつくづく感じました。又料理も大人数の準備なので全部冷たくなってしまっていました。

今回の場合は料理卓を別に用意して、着席バイキングスタイルが良かった様に感じました。ただ交流を目的とする場合、立食が理想であります。大人数のこういう会のパーティースタイルを決めるのはとてもむずかしいことだと痛感しました。

今回の地区大会全体としましてはいろいろ手違いはあったようですが、風揚げや角兵衛獅子などの主催地の特色を前面に打ち出した歓迎ムードの運営側の皆さんの努力を感じさせていただいた大会であったと思います。

小林繁男会員

先週の例会時に急に地区大会出席を依頼されましたが、その後FAXで報告をしろとのことでした。原稿も用意しろとのこと一番苦手なことが回ってきたなと思いました。急なことなので原稿なしで感じたこと話させていただきますのでお願いします。

2日間出席しましたが本当に疲れました。パイプイスに座りましたが、座りなれている私でも苦痛でしたので、普段ふかふかの椅子に座りなれている、皆さんは本当に大変だったと思います。山登りよりも疲れました。落ち着きのない私には2日間の缶詰状態は本当に苦痛でした。山登りに行けば良かったと後悔しました。

出席して良かった事は「ロータリーはなんだろうか」と色々な話を聞きましたが、「慈愛の種を播く」何を播くのかと思っていましたが、教育の話から小さい子供の頃からの教育の中でボランティアということを理解するという事も種を播く事の一つだと理解してきました。又、こういう大きな大会に出席することによって、ロータリアンの真髄というかやるべきことを再認識できました。例会のあり方も考えさせられました。

齊藤興一会員

まずバスの時間に遅れた事のお詫びをします。緊急の携帯電話で済生会病院までの時間があり交通渋滞に巻き込まれ、国道も8号線の十字路でバスに拾われ、白根市8号線脇の瑞雪楼（みゆきろう）に昼食を食べに寄りました。

駐車場から玄関迄は路地庭園風に作られており従業員のお出迎えを受け、言葉丁寧、又品良く座敷に案内され高級な色香を感じました。

お庭は武蔵野をイメージした作庭でしたが、コンクリート塀がイメージに合わぬように思いました。

料理は会席風で味良く器との調和良くもてなしの心を感じました。私は思いましたが10の1／3